

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475301071	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地		
所在地	(〒213 -0032) 神奈川県川崎市高津区久地2-12-22		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策として、現在亚克力板越しで玄関前での面会対応中。面会に制限があるため、ご家族や地域の方、施設をお探しの方に当事業所事、利用者様の現在の状況をわかっているようにスタッフブログを定期的に更新。日々の出来事や行事での様子等をわかりやすく掲載する事をけている。 ・グループホームみんなの家・川崎久地が大切にしている事のひとつに「行きたい所」に行くという事を掲げているがコロナ対策でこちらも難しい現状であるため、毎月実施の出前昼食レクを活用。お好きなメニューを選んでいただき、当日楽しく食事をする事は利用者様の楽しみの一つになっている。 ・季節のちぎり絵制作、リモート体操、日々の歌レク、近隣散歩、久地リンピックや秋祭り等も力を入れ、共に楽しんで活動している行事である。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年12月16日	評価機関 評価決定日	令和5年1月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇事業所の理念「笑顔でより楽しい毎日を」の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎ時に理念を唱和し、意識を高めている。職員が笑顔で利用者に接し、会話や表情から利用者の思いを汲み取り、利用者が楽しく暮らせるように努めている。 <p>◇レクリエーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁飾りの制作、ゲーム、出前昼食、おやつ作り、誕生会、コンサートなどのほか、リモートによる体操や運動会、盆踊り、秋祭りなど、多彩なレクリエーションを実施している。利用者との会話から希望を把握し、抹茶と和菓子を楽しむお茶会を開催するなど、利用者の思いを大切にレクリエーションを行っている。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇家族との関係継続の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族には、毎月のたより「一言通信」と、職員による週数回のブログ配信を行っている。行事での利用者の様子、日常の利用者と職員の会話の様子、職員勉強会の様子などが、ブログで頻繁に配信されている。コロナ禍で面会制限がある中で、利用者と事業所の様子が良く分かって安心出来ると、家族からの声が寄せられている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示をしている。日々の申し送りの時に唱和をする事により、常に意識付け、実践へと繋げている。	・事業所理念「・・・笑顔でより楽しい毎日を」を申し送り時に唱和し、職員の意識を高めている。 ・理念の実践のため、まず職員が笑顔で利用者に接し、利用者が楽しく過ごせるよう、寄り添って話を聞くなどしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策により施設への入館および面会の一時停止が続いた。（現在はご家族様のみ玄関先でパーテーション設置をし、時間を決めての面会中）地域の方、ボランティア来訪も現在休止中。地域の一員として日常的に交流は難しい現状であった。	・町内会に加入し、町内会会長、老人会会長とは運営推進会議で連絡を取り合っている。 ・コロナ禍で、ボランティア来訪、地域行事への参加、買い物は休止している。散歩は継続し、近隣から庭の柚子を貰う交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、実際には難しい部分があった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為事業所に地域の方々をお呼びしての報告は難しかった為、書面での報告を行った。又、質問等あればご記入くださいとの用紙もつけ、都度お渡しさせていただいた。（ご家族、町内会長、老人会会長、婦人部、地域住民代表、地域包括職員）	・運営推進会議は書面方式で、活動報告書をメンバーに送付し、事業所の現状を理解して貰っている。 ・電話連絡で、メンバーの町内会長や家族から意見や感想を得ている。 ・意見を基にレクリエーションを充実し、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所職員や地域包括職員とは介護保険や生活保護、空室案内等に関する事で連絡を取り合った。又、11月17日には感染症対策をした上で、地域見守り活動連絡会に参加(地域住民、役所、包括参加)をし、意見交換を行った。	・介護保険や生活保護の区役所関係部署と協力関係を築いている。コロナ禍で、生活保護者と区相談員との面談に代え、事業者から電話で状況を伝えている。 ・地域高齢者見守り活動連絡会でも区役所担当者と情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置。話し合いや事例検討、ロールプレイ等を実施する中で理解を深めている。その他身体拘束チェックシートを用いて3か月に1回の見直しを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年に6回の身体拘束廃止委員会で、利用者の状況を話し合い、拘束にならないケアに努めている。 ・研修で事例検討やロールプレイを行い、拘束の理解を深めている。 ・声掛けや車椅子の操作など、拘束にならないよう指導している。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、チェックシートを用いた話し合いを行っている他、勤務に入る前にも「虐待ゼロへの行動指針」を唱和する事で意識付けを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年に4回、虐待防止委員会を設け、研修を行っている。 ・引き継ぎ時に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和して虐待防止の意識を高めている。 ・チェックシートでケアを見直し、管理者が虐待防止を指導している。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されているセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらかじめ十分な説明を行い、理解、納得をしていただいた上で契約をしている。契約時以外でも随時質問を受け、安心して理解していただける様努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議はコロナ対策の為、事業所内で実施が出来ていない状況であるがその旨を知らせるご案内用紙に意見を書いていただける枠を設けている。その他日常での電話連絡時やご家族様来訪時にお伺いし、反映させ続けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会がコロナ禍で中止しているため、電話や面会時に家族の意見を聞いている。 ・面会制限で利用者の様子が気になるという意見があり、毎月発行の「一言通信」、ブログ、ビデオ電話を活用して様子を伝えている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個別に面談する機会等を設けている。その他にも連絡帳を用いて意見が反映できる環境を作り、反映させている。	・毎月のフロア会議、個別面談、連絡帳で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 ・利用者の要望を汲み取った職員からのレクリエーションの提案が多い。そのための備品は出来るだけ購入している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事でそれぞれがやる気や向上心を持って働く事が出来る環境整備に努めている。	・資格給、役職給を設け、年に2回の人事考課で、平等な評価で向上心を持って働けるようにしている。 ・職員の資格取得を勧め、受講料を補助している。 ・職員の相談に応じてシフトの編成を行い、職場の整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のフォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。働きながらトレーニング、スキルアップ出来る環境がある。	・法人の内部研修の年間計画に基づき、職員全員が受講している。 ・外部研修の情報を公開し、職員に応じた受講を促している。 ・研修内容と報告書は閲覧できるようにしており、勉強会でも報告して情報共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対策の為、同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。リモート交流等で法人内他事業所と交流する機会があった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族の話の聞いている。その他連絡時に積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を念入りに行う事を基本とし、不安な事、要望に耳を傾けている。安心感のある対応・風通しのいい環境を続ける事で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行い、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有。「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行っていただき、終了後は感謝の気持ちをお伝えしている。それにより「相互に支え合う関係」を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不定期に更新しているスタッフブログ、毎月発送している一言通信、その他電話連絡時やホーム来訪時に報告・連絡・相談を行い、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人との会話の中で出たワードを下に、話題提供、支援を行っている。 ※コロナ対策前は昔からの趣味や馴染みの場所への外出を定期的に行っていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で墓参や趣味の場所への外出は休止しているが、電話の取り次ぎや手紙の一部代筆で、家族との関係継続を支援している。 ・生活歴などから、馴染みの人や場所を把握して、話題提供する事で、利用者の思い出を大事にしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一体感を持てるようなレクリエーションを実施している。支え合いの関係を築けるように職員が橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションから希望や意向を抽出し、把握に努めている。思いに添えるようなケアの実現を目指し、対応をしている。	・日常の会話から、利用者の希望や意向の把握に努め、連絡帳や申し送りで職員間で情報共有している。 ・希望の把握が困難な場合は表情や視線、仕草から汲み取り、カンファレンスで検討して、思いに沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にて出身地等過去の生活歴を把握した上でフェイスシートに反映させている。 日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルを考慮する努力を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回のバイタル測定値や食事量、水分量、排泄の状況を表にまとめ、健康状態を把握しやすくしている。 又、利用者様個々の身体状況や言動、行動等を日々生活記録に記載し、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成にあたっては、ご本人、ご家族の意向を必ず反映させた上で必要に応じて関係者（医師）等の意見も取り入れ、現状に即した介護計画書を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と家族、職員、医療関係者の意見を反映して、介護計画を作成している。 ・3か月ごとに、管理者、計画作成者、居室担当でモニタリングを実施している。また、重度化などの状況に応じて見直しを行っている。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有のため、生活記録やノートを活用している。ケアがうまくいった方法やケアに関する情報は、申し送りやフロア会議等で共有し、介護計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、個々が必要としているサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策にて現在は地域のイベント参加は自粛中である。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔なじみの関係である。かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変対応が出来る支援体制である。外部通院をされる方へは主治医からの情報提供や通院のサポートを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に利用者、家族の全員の同意を得て、協力医をかかりつけ医として月に2回の訪問診療を受けている。毎週、歯科医の訪問診療がある。 ・専門医への定期的な通院は家族が同行し、情報を共有している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録が介護職・看護職とが相互に報告・連絡・相談をしあうツールとなっている。ケアの現場で直接助言をいただく事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様のホームでの生活状況を細かく伝え、密な連携を図る事で早期退院を目指している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期における対応方法の説明を行っている。必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながらご家族を含めた話し合いの場を設け、チーム支援に繋がっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、本人、家族に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。 ・重度化の段階ごとに提供可能な看取り計画を作成し、家族、医療関係者、職員が情報を共有し支援をしている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の対応や連絡先を共有している。勉強会等で対応力を養っている。緊急連絡網を整備し、素早く対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に設け、実施訓練を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含む避難訓練を利用者と一緒に年に2回実施し、内1回は消防署員が立ち会い消火器の使い方の訓練を行った。 ・3日分の食料や水を備蓄し品名、数量、消費期限を記載し、リスト化している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとりひとりに合わせたお声掛けを行っている。 接遇研修やフロア会議で振り返りをしている。 個々の人格の尊重やプライバシーを大切にしたい対応を行っている。	・入職時研修で人格を損ねない言葉かけや実技の研修を受けている。 ・管理者は不適切な言動を目にした時はすぐに職員に気付きを求めて、人格を尊重した対応を促している。 ・個人情報に関する書類は鍵のかかる書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな事・好きな物を選ぶような声掛けに努めている。言葉で表現できない思いも見逃さないよう、表情や視線にも気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望やペースを叶えられるように努めている。ご利用者の動きを制するような言葉を使わないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩やヘアカラー、セラピー等々…その人らしいおしゃれが出来るよう支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望や状態にあった手伝いが行えるように支援をし、職員と共に準備や片づけをしている。毎月の出前昼食やおやつ作り等で「食」を楽しんでいただけるように支援をしている。	・利用者は、できる範囲で配膳や片付けを行っている。 ・利用者が楽しみにしている毎月の出前昼食はメニューから利用者が選んでいる。おやつ作りの日は利用者も参加し、出来上がったおやつは職員と共に味わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・極刻み・ペースト状）にて対応をしている。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に1度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による歯科支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、それぞれに合わせた自尊心を対応を続けている。	・トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表やサインを見逃がさないようにしている。歩行やズボンの着脱など、自分で出来ることは自分で行い自立に向けた支援をしている。 ・失敗した時は羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量確保や日々の体操や運動にて便秘予防に取り組んでいる。又、必要に応じて乳酸菌飲料や内服薬にて排便コントロールをしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意向や希望をお伺いし、希望を配慮した上で入浴支援を行っている。入浴日の固定、時間の固定、無理強いはいしていない。	・週に2回以上の入浴は利用者の意向を聞いて決めている。 ・浴槽の湯は利用者ごとに取り換えている。 ・入浴が楽しくなるような言葉かけや思い出話などで利用者それぞれの気持ちに合わせて支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその時の状況を把握した上で個々にあった休息をしていただいている。 自室でくつろいでいただける時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し、除圧をする時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時に薬剤師より説明を受け、薬の理解を深めている。 又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の性格や楽しみ、得意な事に合わせて役割や楽しみの支援をしている。 (散歩、歌、季節のちぎり絵、お手伝い、読書等)		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス対策の為、現在は利用者様の「いきたい所」への外出(レストラン等)は控えている。外出は近隣の散歩程度としている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、コロナ禍でも施設周辺の散歩を行い、近隣の方と挨拶を交わしている。 ・車椅子の利用者もベランダで事業所のお茶会に参加している。 ・やや重度の利用者も日当たりの良いフロアで外気浴をしている。 	コロナ収束後の「外出レクリエーション」再開に向けての体制作りが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っているが、ご家族了承の下、安心の為少額を持たれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話の取次ぎを行っている。ご家族と通話の調整をしたり、利用者様が苦手な部分を手助けして、継続的な交流を支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間（フロア、廊下）に行事等で撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振り返られるようにしている。又、季節に合わせた制作物、装飾や照明の管理、換気、温度、湿度管理清掃を適宜実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況下で、消毒、温度、換気に留意している。 ・壁面には季節の作品や行事などの写真を飾り、利用者同士で話題を共有し楽しんでいる。 ・フロアにはソファがあり、利用者同士で寛いだり、談笑している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（各階フロア）にはソファや大型TV、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりとみなさまのおのの時間を過ごし、楽しまれている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、ご家族の写真等をお持ちいただいている。ご希望があればホームで撮った写真や色紙等も飾り、安心出来る空間作りに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、ベッド、ダンスを設置し、人感センサーや緩衝マットを利用している。利用者は、筆筒や写真など馴染みのものを持ち込んでいる。転倒リスクのある利用者には、家具の配置など本人、家族と相談しながら決めている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の表示を分かりやすく（顔写真や文字拡大）掲示している。又、バリアフリー、同線の確保により安全な生活環境を整えている。		

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示をしている。日々の申し送りの時に唱和をする事により、常に意識付け、実践へと繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策により施設への入館および面会の一時停止が続いた。（現在はご家族様のみ玄関先でパーテーション設置をし、時間を決めての面会中）地域の方、ボランティア来訪も現在休止中。地域の一員として日常的に交流は難しい現状であった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、実際には難しい部分があった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為事業所に地域の方々をお呼びしての報告は難しかった為、書面での報告を行った。又、質問等あればご記入くださいとの用紙もつけ、都度お渡しさせていただいた。（ご家族、町内会長、老人会会長、婦人部、地域住民代表、地域包括職員）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所職員や地域包括職員とは介護保険や生活保護、空室案内等に関する事で連絡を取り合った。又、11月17日には感染症対策をした上で、地域見守り活動連絡会に参加（地域住民、役所、包括参加）をし、意見交換を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置。話し合いや事例検討、ロールプレイ等を実施する中で理解を深めている。その他身体拘束チェックシートを用いて3か月に1回の見直しを行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、チェックシートを用いた話し合いを行っている他、勤務に入る前にも「虐待ゼロへの行動指針」を唱和する事で意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されているセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらかじめ十分な説明を行い、理解、納得をしていただいた上で契約をしている。契約時以外でも随時質問を受け、安心して理解していただける様努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議はコロナ対策の為、事業所内で実施が出来ていない状況であるがその旨を知らせるご案内用紙に意見を書いていただける枠を設けている。その他日常での電話連絡時やご家族様来訪時にお伺いし、反映させ続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個別に面談する機会等を設けている。その他にも連絡帳を用いて意見が反映できる環境を作り、反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事でそれぞれがやる気や向上心を持って働く事が出来る環境整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のフォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。働きながらトレーニング、スキルアップ出来る環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対策の為、同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。リモート交流等で法人内他事業所と交流する機会があった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族の話の話を聞いている。その他連絡時に積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を念入りに行う事を基本とし、不安な事、要望に耳を傾けている。安心感のある対応・風通しのいい環境を続ける事で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行い、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有。「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行っていただき、終了後は感謝の気持ちをお伝えしている。それにより「相互に支え合う関係」を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不定期に更新しているスタッフブログ、毎月発送している一言通信、その他電話連絡時やホーム来訪時に報告・連絡・相談を行い、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人との会話の中で出たワードを下に、話題提供、支援を行っている。 ※コロナ対策前は昔からの趣味や馴染みの場所への外出を定期的に行っていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一体感を持てるようなレクリエーションを実施している。支え合いの関係を築けるように職員が橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションから希望や意向を抽出し、把握に努めている。思いに添えるようなケアの実現を目指し、対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にて出身地等過去の生活歴を把握した上でフェイスシートに反映させている。 日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルを考慮する努力を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回のバイタル測定値や食事量、水分量、排泄の状況を表にまとめ、健康状態を把握しやすくしている。 又、利用者様個々の身体状況や言動、行動等を日々生活記録に記載し、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成にあたっては、ご本人、ご家族の意向を必ず反映させた上で必要に応じて関係者（医師）等の意見も取り入れ、現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有のため、生活記録やノートを活用している。ケアがうまくいった方法やケアに関する情報は、申し送りやフロア会議等で共有し、介護計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、個々が必要としているサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策にて現在は地域のイベント参加は自粛中である。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔なじみの関係である。かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変対応が出来る支援体制である。外部通院をされる方へは主治医からの情報提供や通院のサポートを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録が介護職・看護職とが相互に報告・連絡・相談をしあうツールとなっている。ケアの現場で直接助言をいただく事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様のホームでの生活状況を細かく伝え、密な連携を図る事で早期退院を目指している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期におけるの対応方法の説明を行っている。必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながらご家族を含めた話し合いの場を設け、チーム支援に繋げている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の対応や連絡先を共有している。勉強会等で対応力を養っている。緊急連絡網を整備し、素早く対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に設け、実施訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとりひとりに合わせたお声掛けを行っている。 接遇研修やフロア会議で振り返りを行っている。 個々の人格の尊重やプライバシーを大切にしたい対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな事・好きな物を選ぶような声掛けに努めている。言葉で表現できない思いも見逃さないよう、表情や視線にも気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望やペースを叶えられるように努めている。ご利用者の動きを制するような言葉を使わないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩やヘアカラー、セラピー等々…その人らしいおしゃれが出来るよう支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望や状態にあった手伝いが行えるように支援をし、職員と共に準備や片づけをしている。毎月の出前昼食やおやつ作り等で「食」を楽しんでいただけるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・極刻み・ペースト状）にて対応をしている。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に1度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による歯科支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、それぞれに合わせた自尊心を傷付けない対応を続けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量確保や日々の体操や運動にて便秘予防に取り組んでいる。又、必要に応じて乳酸菌飲料や内服薬にて排便コントロールをしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意向や希望をお伺いし、希望を配慮した上で入浴支援を行っている。入浴日の固定、時間の固定、無理強いはしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその時の状況を把握した上で個々にあった休息をしていただいている。 自室でくつろいでいただける時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し、除圧をする時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時に薬剤師より説明を受け、薬の理解を深めている。 又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の性格や楽しみ、得意な事に合わせて役割や楽しみの支援をしている。 (散歩、歌、季節のちぎり絵、お手伝い、読書等)		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、現在は利用者様の「いきたい所」への外出(レストラン等)は控えている。外出は近隣の散歩程度としている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っているが、ご家族了承の下、安心の為少額を持たれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話の取次ぎを行っている。ご家族と通話の調整をしたり、利用者様が苦手な部分を手助けして、継続的な交流を支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間（フロア、廊下）に行事等で撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振り返られるようにしている。又、季節に合わせた制作物、装飾や照明の管理、換気、温度、湿度管理清掃を適宜実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（各階フロア）にはソファや大型TV、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりとみなさまのおのの時間をすごし、楽しまれている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、ご家族の写真等をお持ちいただいている。ご希望があればホームで撮った写真や色紙等も飾り、安心出来る空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の表示を分かりやすく（顔写真や文字拡大）掲示している。又、バリアフリー、同線の確保により安全な生活環境を整えている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家.川崎久地

作成日 令和 4年 12月 27日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	コロナ収束後、「外出レクリエーション」再開に向けての体制作り	利用者様のADLの維持、QOLの維持・向上。	①出来る事はご自身で行っていただく（身の回りの事、日常家事）職員は必要により感謝の気持ちを伝える。②毎日の体操の継続。③毎月の室内レクの充実、実施。④散歩、外気浴の継続。⑤状況を見た上で、地域の行事の参加。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。